

特集 スピーキング力を伸ばす

スピーキング指導における評価について

田中武夫
(山梨大学)

スピーキング力は、文法やリーディング力と違って、筆記テストで測定することはできません。スピーキングテストを実際に課し、生徒のパフォーマンスをもとに評価することになります。では、何をどのようにテストすればよいのでしょうか。

1. スピーキング指導で何を評価するのか

スピーキングの評価でもっとも大切なことは、どのようなスピーキング力を育てたいのか教師が具体的な目標をもつことにあります。その際、コミュニケーション能力の構成概念が、スピーキング指導の目標設定に役立ちます。コミュニケーション能力の捉え方にはいくつかありますが、代表的なものとして、文法能力、談話能力、社会言語能力、方略能力の4つの要素があります(Canale, 1983)。

文法能力とは、音声、語彙、文法を正しく用い、相手にメッセージを正確に伝える力を指します。談話能力とは、1文以上の長さで、自然な流れの一貫した会話を作り出す能力のことです。社会言語能力とは、相手との関係や目的・場面を把握し、適切な

表現を使って意図を伝える能力のことです。方略能力とは、上記の力が不十分であっても、なんとかして相手に意味を伝える工夫をする力のことです。

コミュニケーション能力のうちの何に焦点を当てて指導を行うかを決めると、授業中にどのような活動を行い、どのように評価すべきか計画しやすくなります。例えば、生徒の方略能力を育てたい場合、話し相手との会話を途切れることなく継続させる力を育成し評価することになります。また、社会言語能力の育成を目標にした場合、会話の目的と相手を的確に把握し適切な表現ができる力を育成し評価することになります。表1は、どこかに誰かを誘う電話の会話をもとに、4つの能力に応じ指導目標をそれぞれ設定した場合の言語活動例と評価例を提示しました。

表のすべての目標を1つの授業で扱うというわけではありませんが、同じ電話の会話でも、異なる視点からスピーキング力を評価することが可能であることがわかります。また、指導目標を具体的に決めることで、授業の中で行う言語活動の内容や指導

表1. スピーキング指導の目標・言語活動・評価例

	指導目標例	言語活動例	評価例
文法能力	学習した語彙や表現などを正しく用いて、相手にメッセージを正確に伝えることができる。	This is ~ speaking. May I speak to ~?などの電話の会話で役立つ表現を覚え、それらを使ってロールプレイをさせる。	習った定型表現を間違わずに、正確に使用することができたか。
談話能力	自然な流れの会話になるよう、相手との会話をうまくつないで、わかりやすくメッセージをやりとりできる。	土曜日のパーティーに電話で友だちを誘う会話のスキットを英語で作らせ発表させる。	電話での2人の会話の中で、自然な流れでturn taking できたか。
社会言語能力	どのような場面で、誰が相手で、何が目的かを的確に把握し、それに応じてメッセージを適切に伝えることができる。	ALTの先生に、スピーチの原稿を見てほしいと電話で依頼する設定のスキットを作らせ発表させる。	相手に配慮して丁寧な表現や理由を考え、目的とする依頼が達成できたか。
方略能力	限られた時間の中で、自分の力をうまく補って、途切れることなく相手との会話を続けることができる。	ALTを相手にし、校内電話を使って、途切れることなく3分間英語のみで話し続ける活動をさせる。	話が途切れることなく、3分間英語のみで会話を継続することができたか。

後の評価ポイントが決まることもわかります。

2. どのようにスピーキングを評価すればよいのか

では次に、スピーキングテストにおいて、どのように生徒のパフォーマンスを評価すればよいかを見てみましょう。生徒のパフォーマンスを引き出す方法として、表2に示すような多様なタスクが考えられます。タスクの特徴に応じ、スピーキング力の異なる側面を評価することができます。例えば、好き嫌いを尋ねるようなインフォメーション・ギャップでは、Do you like ~?などの文法事項を正しく使うことができるかどうかを評価できます。趣味を話し合うようなディスカッションでは、より詳しい情報を尋ねたりして、会話を継続させる力を評価することができます。

表2. スピーキングテストのタスク例

タイプ	特徴	主な評価対象（例）
インフォメーション・ギャップ	お互いの不足する情報や新情報を活動によって補完させる。	学習した文法や表現を使って情報のやりとりができるかどうか。
インタビュー	あるトピックについて、教師が質問したり、情報や課題を要求したりする。	学習した文法や表現を駆使し、要求に応答することができるかどうか。
ロールプレイング（スキット）	場面や人物などを設定し（自分で会話を作り）、自然な言語使用を体験させる。	場面や目的に応じて適切な言語使用ができるかどうか。
リシテーション	教科書の本文などの意味内容を捉え、感情を込めて英文テキストを暗唱させる。	適切な発音やリズムで表現することができるかどうか。
スピーチ	あるトピックについて自分の意見や体験をまとめ、クラスの前で発表させる。	談話構成を含め、わかりやすく伝えることができるかどうか。
ディスカッション	あるトピックについてペアやグループで自分の意見を即興で言い合う。	ある話題について瞬時に対応し、会話を継続させることができるかどうか。
ディベート	あるトピックに対し賛成・反対を表明し、意見を発表させる。	説得力のある意見を瞬時に述べることができるかどうか。

これらは、普段の授業の中での活動として生徒の取り組みを直接評価することが考えられます。一方、普段の授業とは別に、教師とのインタビューの中で評価する方法も考えられます。インタビューでは、表2で挙げたタスクを教師の前でパフォーマンスさせます。例えば、パーティーへの誘いを断る

といったロールプレイ的な課題を与えてたりできます。また、準備してきたスピーチやスキットを発表させる形も考えられます。

次にインタビューの中でもロールプレイ的な課題を課したスピーキングテストの例を、NEW CROWN 3 の DO IT TALK 4 や TALK 5 の応用例として紹介します。

カードに書かれている場面での会話を行います。 次のカードに書かれたように会話をしましょう。
・あなたはジョン先生の家に電話をかけます。
・明日の午後1時から桜スタジアムで野球の試合があります。
・その試合にジョン先生を誘います。

（テストを実施する前に、表3のような評価規準を生徒に示しておくと、そこを意識して取り組むことになります。また、テスト後のフィードバックとしても活用できます。）

表3. 評価チェック表

評価規準	評価基準
(1) 電話の決まり文句を正確に使うことができる。	(1-2-3-4-5)
(2) 話を聞いて自然な流れで受け答えができる。	(1-2-3-4-5)
(3) 教師との会話をうまく継続させることができます。	(1-2-3-4-5)
(4) 相手を誘う目的を達成させることができる。	(1-2-3-4-5)
	合計

ここでは、スピーキングテストにおいて何をどのようにテストし評価すべきかを見ました。当然ながら、授業の中で十分指導し練習を行った上で、スピーキング力を評価することが前提です。また、スピーキングテストを含めた長期的な指導計画を立て、同僚との共通理解を図り、テスト時間を確保することも重要です。その上で、生徒のスピーキング力を多様な側面から捉え、適切な方法で評価できれば、豊かなスピーキング力を育成することにつながるはずです。

【参考文献】

- Canale, M. (1983). "From communicative competence to communicative language pedagogy." In J. Richards and R. Schmidt. (Eds.). *Language and Communication*. London: Longman.